



日立連合ねぶた委員会の グローバル展開 2024

青森ねぶた祭は、日本の本州最北端に位置する青森県青森市で毎年8月2日から7日に開催される東北三大祭りの一つであり、国の重要無形民俗文化財に指定されています。明かりを灯した巨大な灯籠「ねぶた」を山車に乗せて街中を練り歩き、「ハネト」と呼ばれる人々がねぶたの後ろにつづき、お囃子の音に合わせて元気よく飛び跳ねる華やかなお祭りです。青森市内の中心街を通行止めにして、全長約3kmを2時間かけて運行、6日間で延べ200万人が訪れ、ハネトは10万人に及びます。

日立グループは1965年(昭和40年)から地域社会への貢献を目的に、「日立連合」として50年以上にわたり、青森ねぶた祭に参加しております。その中で近年取り組んでいるのが、本体からCO2を排出させない、「脱炭素ねぶた」です。大型ねぶたは従来、軽油使用の発電機を使って点灯されていましたが、「世界中で環境への関心が高まる中、だれもが安心して楽しめる祭づくりに貢献したい」という思いから、日立は2022年、青森ねぶた祭史上初となる、“蓄電池”を搭載した大型ねぶたを運行し、従来比、約170kgのCO2排出を削減することができました。

日立連合ねぶた委員会では、青森ねぶた祭の魅力をより多くの方々に知っていただきたいと考えており、海外の方々にも青森ねぶた祭を体験していただきたいと考えています。そこで、将来的に海外のお客さまやビジネスパートナーの皆様を招待することを見据えて、2024年は、日立の海外国籍の社員6名が青森ねぶた祭に参加しました。この記事では、今回の参加者が感じた青森ねぶた祭の魅力についてご紹介します。



参加者プロフィール

[名前/出身国/役職]

John Fyfe (スコットランド)
株式会社日立製作所
営業統括本部グローバル営業改革担当
Chief Marketing Officer

Tabitha Dunn (アメリカ)
株式会社日立製作所
営業統括本部グローバル営業改革担当
カスタマーエクスペリエンス/CRM本部長

Verity Arndt (イギリス)
株式会社日立製作所
営業統括本部グローバル営業改革担当
コミュニケーション本部長

Anne Martin (ドイツ)
株式会社日立製作所
営業統括本部グローバル営業改革担当
タレントマネジメント本部長

Ashok Nahar (インド)
株式会社日立製作所
営業統括本部グローバル営業改革担当
パフォーマンスマネジメント本部長

Adrian Mather (オーストラリア)
株式会社日立製作所
営業統括本部グローバル営業改革担当
アカウントマネジメント本部長



青森ねぶた祭ならではの特別な体験

日立連合ねぶた委員会のグローバル展開2024

参加者の声

参加者からは、祭りのすばらしさや活気あふれる雰囲気感動の声が寄せられました。

照明や衣装がすばらしく、あらゆる年齢や性別の人たちが参加していることに魅力を感じました。みんなが幸せそうで私たちも参加しやすかったです。もし海外のお客さまをご招待することができれば、きっとこのユニークな体験を楽しんでいただけたと思います。また、CO2削減のために、日立が展開しているバッテリーソリューションの取り組みにも感動しました。

John Fyfe (スコットランド)

青森ねぶた祭は驚くべきお祭りでした。アメリカでもパレードは人気ですが、仮装すればだれでも参加することができるというのは、青森ねぶた祭ならではの特徴だと感じました。日立が日本の重要な伝統行事において新たな電源手段があることを示したのは良かったです。このような貴重な機会をいただけて本当に感謝しています。

Tabitha Dunn (アメリカ)

世界でも有名なお祭りを体験することができ、ワクワクしましたし、美しかったです。一生の思い出になりました。掛け声、太鼓、行列の歓声などは他に類を見ないもので、私自身、伝統衣装を着ることができたのは本当に感動しました。海外からの訪問者にとって、地域ならではの魅力あふれる体験ができると思います。

Verity Arndt (イギリス)

本当に息を呑むような体験でした。ずっと青森ねぶた祭に行ってみたかったので、今回、皆さんと一緒に踊ったことは一生忘れられない思い出になりました。すべての大型ねぶたがとても美しく照らされていました。ねぶたには、日本の歴史や民話などが表現されており、私の想像を膨らませてくれました。

Anne Martin (ドイツ)

インドでも多くのショーバー・ヤートラ(祭の行進)が行われています。どちらのお祭りにも特徴があり、ユニークですが、青森ねぶた祭のエネルギーも驚くべきものでした。私にとって一生に一度の特別な体験であり、日立の企画、サポート、そして脱炭素の取り組みがすばらしかったです！

Ashok Nahar (インド)

日立のチームはとてもエネルギーで、私たちに青森ねぶた祭と日本・東北の文化を見せたいという熱い思いが伝わってきました。地域の祝祭に参加し、衣装を着ることができたのは、文化的でワクワクする体験でした。お客さまを招待したら、きっと喜んでいただけたと感じました。

Adrian Mather (オーストラリア)

国境を越えて人々を魅了する



Comment

青森ねぶた祭特有の雰囲気を、ぜひ海外の方に感じていただきたい。

日立連合ねぶた委員会

会長 川内 英明

(株式会社日立製作所東北支社 青森支店長)

以前、日立グループ内のコミュニケーションツールを使って青森ねぶた祭の活動を紹介した際に、海外の方からの反応が非常に良かったことで、青森ねぶた祭のポテンシャルの高さを実感しました。世界中に伝統的なお祭りがたくさんありますが、青森ねぶた祭は他に類を見ない特別なお祭りとして海外の方々にとっても魅力的に映るようです。

そこで、日立は長い間青森ねぶた祭に参加してきた経験から、海外の方々と一緒に活動することができないかと考え、日立グループの外国籍の方々に青森ねぶた祭に参加してもらい、その魅力を知ってもらいました。

今回ご参加いただいた皆さんには、各自の国でこの体験について発信していただき、来年度以降の海外のお客さまやビジネスパートナーの招待にぜひ活用していただきたいと思います。また、たくさんの海外の方々に青森を訪れていただき、地域の活性化に貢献できれば、私も大変嬉しいです。

